

Residence kit スマートロック Type-BT02

設置説明書

設置される前に

- 正しい設置をしていただくため、最新の設置説明書を必ずお読みください。
- 万一、設置説明書に従わず取り付けされた場合の事故や故障などについては責任を負いかねます。
- 本製品の故障、誤動作、不具合等の外部要因によって正常に機能しなかったことによる付随的な補償や、損害につきましては、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。



目次

1. 安全上のご注意	3
2. 機器仕様	5
3. 設置の流れ	5
4. セット内容	6
5. 事前準備	
スパーサーの枚数確認	7
取付けプレートの向き確認	8
錠前・レバーハンドルを取り外し方	9
6. ICマルチリーダー取り付け	
MIWA LAタイプ	10
MIWA LSP・GOAL LX/TXタイプ	12
7. 電動サムターンの取り付け	13
8. 各種設定	
ディップスイッチ設定	19
9. 動作確認	20
10. 暗証番号のリセット	21
11. Q&A	22
12. 図面	23
13. ドアのみめ知識	24

1. 安全上のご注意

お使いになる前に必ずお読みください。

ここで示した表示内容は、お使いになる方やその他の方への危険や損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

警告表示の意味

 警告	使用者が死亡や重傷(※1)を負うおそれがある内容です。
 注意	使用者が傷害(※2)を負うおそれがある内容、または物的損害(※3)の発生するおそれがある内容です。

※1：重傷とは、失明やケガ、火傷（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院や長期にわたる通院を要するものを指します。

※2：傷害とは、治療に入院や長期にわたる通院を要さないケガや火傷、感電などを指します。

※3：物的損害とは、家屋、家財、および家畜やペットなどにかかわる拡大損害を指します

	してはいけないことです。		必ず行う（守る）ことです。
---	--------------	---	---------------

警告



禁止

- 製品の分解や改造等は、絶対におこなわないでください。火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



必ず守る

- 無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重いものを載せることはおこなわないでください。火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
- 製品が水・薬品・油等の液体によって濡れた場合、使用しないでください。ショートによる火災や感電の原因となります。
- 煙が出たり、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用しないでください。火災の原因となります。すぐに使用を中止してください。
- 発熱・破裂・発火のおそれがあるため、電池の充電、ショート、新旧・異種電池の混用などしないでください。
- 電池の(+)(-)の向きは正しく入れてください。
- 使えなくなった電池はすぐに機器から取り外してください。
- 長時間使わないときは、機器から電池を取り出してください。
- 乳児の手の届くところに置かないでください。万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

注意



禁止

- 本製品は電子機器ですので、磁気を帯びたものを近づけたり、静電気を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- 濡れた手で本体の操作や、故意に内部に水などを入れないでください。故障の原因となります。
- 高温多湿の場所、温度差の激しい場所、チリやほこりの多い場所、振動や衝撃の加わる場所、強い磁気を帯びたものの近くでの使用・保管は避けてください。故障の原因となることがあります。
- 部屋内側の電動サムターン側本体は非防水です。雨水がかからないようにしてください。故障の原因となります。

1. 安全上のご注意

お使いになる前に必ずお読みください。

ここで示した表示内容は、お使いになる方やその他の方への危険や損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

警告表示の意味

 警告	使用者が死亡や重傷(※1)を負うおそれがある内容です。
 注意	使用者が傷害(※2)を負うおそれがある内容、または物的損害(※3)の発生するおそれがある内容です。

※1：重傷とは、失明やケガ、火傷（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院や長期にわたる通院を要するものを指します。

※2：傷害とは、治療に入院や長期にわたる通院を要さないケガや火傷、感電などを指します。

※3：物的損害とは、家屋、家財、および家畜やペットなどにかかわる拡大損害を指します

	してはいけないことです。		必ず行う（守る）ことです。
---	--------------	---	---------------

注意



- 本製品を日本国外で使用しないでください。本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様です。火災・故障などの恐れがあります。日本国外で使された場合の責任は負いかねます。
- 医療機器、原子力機器、航空宇宙機器、輸送機器など人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備、機器での使用はしないでください。本製品の電波で医療機器(ペースメーカーなど)や電子機器に影響を及ぼす恐れがあります。これらの設備、機器制御システムに本製品を使用し、本製品の故障により人身事故、火災事故などが発生した場合、いかなる責任も負いかねます。
- 設置を誤ったことによる損失、逸失利益等が発生した場合でも、いかなる責任も負いかねます。
- 液漏れした電池の液が眼に入ったり、皮膚・衣服に付着したときは失明やけがなどの原因になるため、多量のきれいな水で洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
- 指定の電池以外は使用しないでください。
- 本製品のボタンを無理に押す事や、ボールペン等、先のとがった物で押さないでください。故障の原因となります。
- 電池はアルカリまたはリチウム乾電池単3形をご使用下さい。その他、充電式乾電池等はお使いにならないで下さい。また、乾電池は異なる種類／メーカー／新旧電池を混ぜて使用しないでください。製品本来の性能が発揮されません。また、故障の原因になります。
- 暗証番号を他人に知られないように注意し、定期的に変更してください。盗難の恐れがあります。
- 外出時には、ドアが完全に閉まったことを必ず確認してください。お客様の過失による損害については責任を負いかねますのでご注意ください。
- 電池残量不足を知らせるキラキラ星のメロディが鳴った場合、速やかに全ての電池を新品と交換して下さい。乾電池を交換せずに使用を続けると作動しなくなります。
- 電池カバーは確実に閉めてください。開いていると内部にほこりが付着し、火災や感電の原因となります。

2. 機器仕様

タイプ	Type-BT02
本体サイズ	ICマルチリーダー：59×125×48mm 電動サムターン：65×140×53mm
対応ドア厚	30～60mm
電源	DC 6V（1.5V×4 本）単3アルカリ電池
非常電源	DC 9V 角型アルカリ電池
乾電池寿命	約12ヶ月(1日約10回使用)
使用温湿度範囲	0℃～45℃／20～85%RH
対応IC規格	ISO 14443A (Mifare®) ISO15693 (I-CORD) ISO 18092 (FeliCa®) ※ FeliCa®は株式会社ソニーの登録商標です。 ※ Mifare®/MifareDESFire®はNXPセミコンダクターズの登録商標です。

3. 設置の流れ

下記の手順にて、機器設置から設定、動作確認まで行ってください。

1. セット内容の確認

- ・各部品が揃っているか確認する
特に、付属品パックが同梱されていることを確認する

2. 設置準備

- ・設置する扉のドア厚、錠ケースのタイプを確認する
- ・錠ケースのタイプに合わせて必要な部品を用意する

3. 機器の設置

- ・錠ケースのタイプに合わせて機器を設置する（MIWA LA/LSP、GOAL LX/TX）
- ・扉の向きに合わせて「ディップスイッチ設定」をする

4. 動作確認

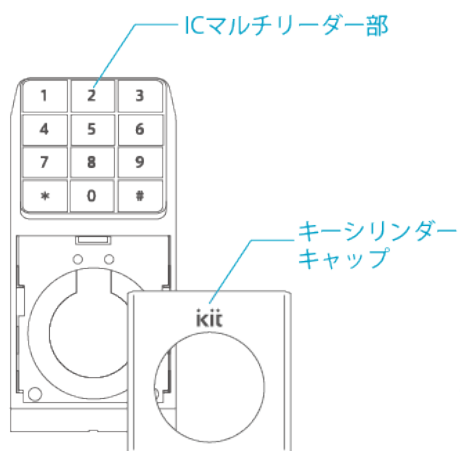
株式会社Residence kitとしては以下の項目を確認することを推奨としますが、実際の運用に合わせて項目を調整してください。（運用については作業依頼者様へご確認ください）

- ・マスターカードによる解錠を確認
- ・暗証番号による解錠を確認
- ・テンキー（#→*）による施錠
- ・Open/Closeボタンによる施錠&解錠
- ・扉勝手設定が正しく設定されているかLEDと音の確認
- ・インボディのサムターンを回した時の感触を確認（固さやひっかかりがないこと）
- ・扉のがたつきや傾きがないこと

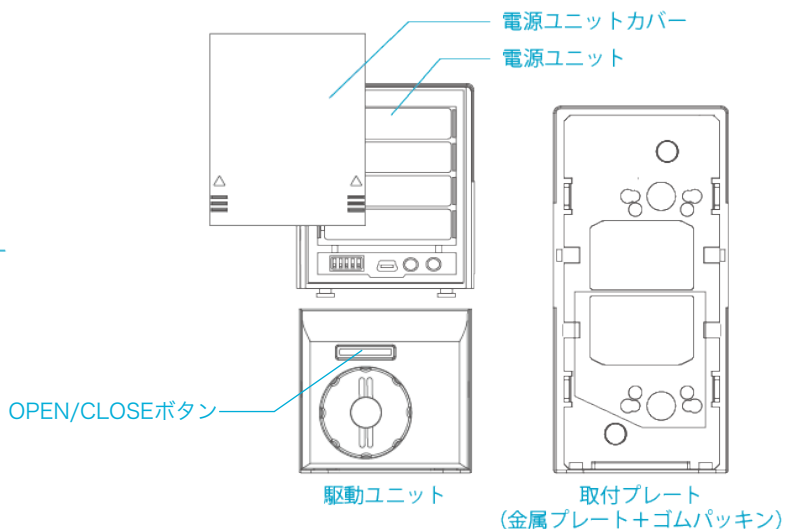
4. セット内容

設置作業前に欠品がないことを必ずご確認ください。

ICマルチリーダー



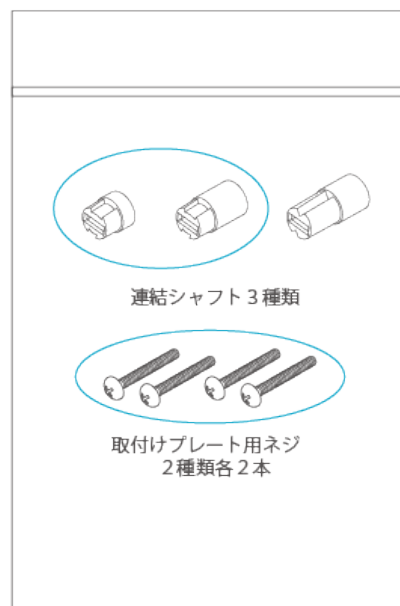
電動サムターン



付属品

錠前のタイプによって選択する部品が異なります。

- ・ 水色で囲まれた部品：どのタイプにも共通して使用する部品
取付けプレート用ネジは扉の種類によって使用するものが異なりますので、必ず現地にて確認し、適切なものを使用してください
- ・ ピンクで囲まれた部品：主にMIWA LAタイプに使用します



5. 設置準備

設置作業の注意事項

- 事前に設置説明書をよく読み、理解の上、手順通りに作業してください。
- 電動ドライバー等は締め過ぎやネジ穴のつぶれ、機器の破損原因となりますので、使用しないでください。
- 作業中はドアが閉まらないようドアを固定して作業してください。

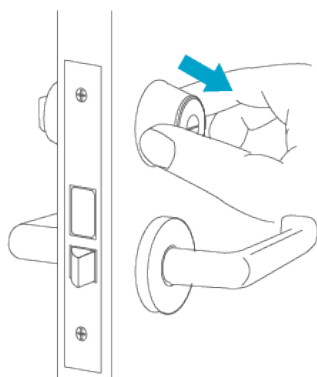
既存錠前の確認

錠ケースやレバーハンドル（シリンダー）は扉に取り付けられている物を使用します。以下の項目について問題がないことを確認してから設置作業に入ってください。もし、問題点がある場合は製品が正常に作動しない場合があります。問題がある場合には、購入元に確認してください。

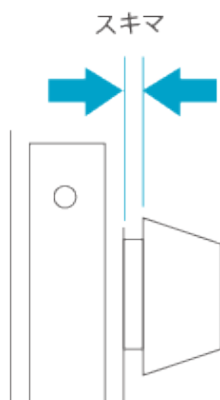
- ドアを閉めた状態でラッチがしっかり掛かり、デッドボルトが受けと干渉せずになめらかに動くか。
- ドアの開閉でドアと枠が当たらないか。
- ドアクローザーの力でラッチが掛かるまでドアが閉まるか。
- サムターンが90度回転し、作動終わりにバネの力が働いてクリック感があるか。
- 摩擦、ガタツキ、変形、サビ、腐食などはないか。

スペーサーの枚数確認

キーシリンダーとドアの間のスキマを埋めるスペーサーの枚数を確認します。スキマの大きさに合わせて必要な枚数を用意してください。スペーサーを挟まないと、本体が回転したり故障の原因となります。



1. キーシリンダーの円錐台のリングを指でつまみ、手前に引っ張る
2. スキマの寸法を測り、必要なスペーサーの枚数を確認する



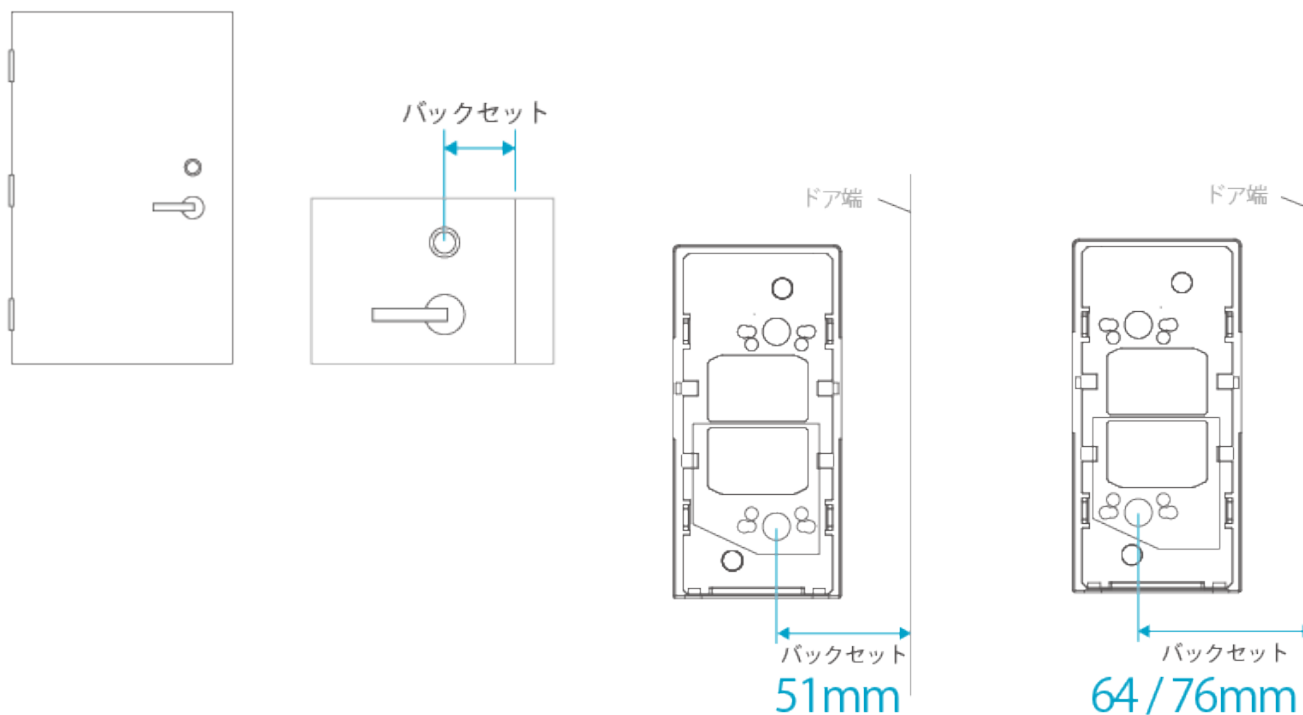
スキマの寸法	スペーサーの枚数
3mm以下	0
4～5mm程度	1
6～7mm程度	2

5. 設置準備

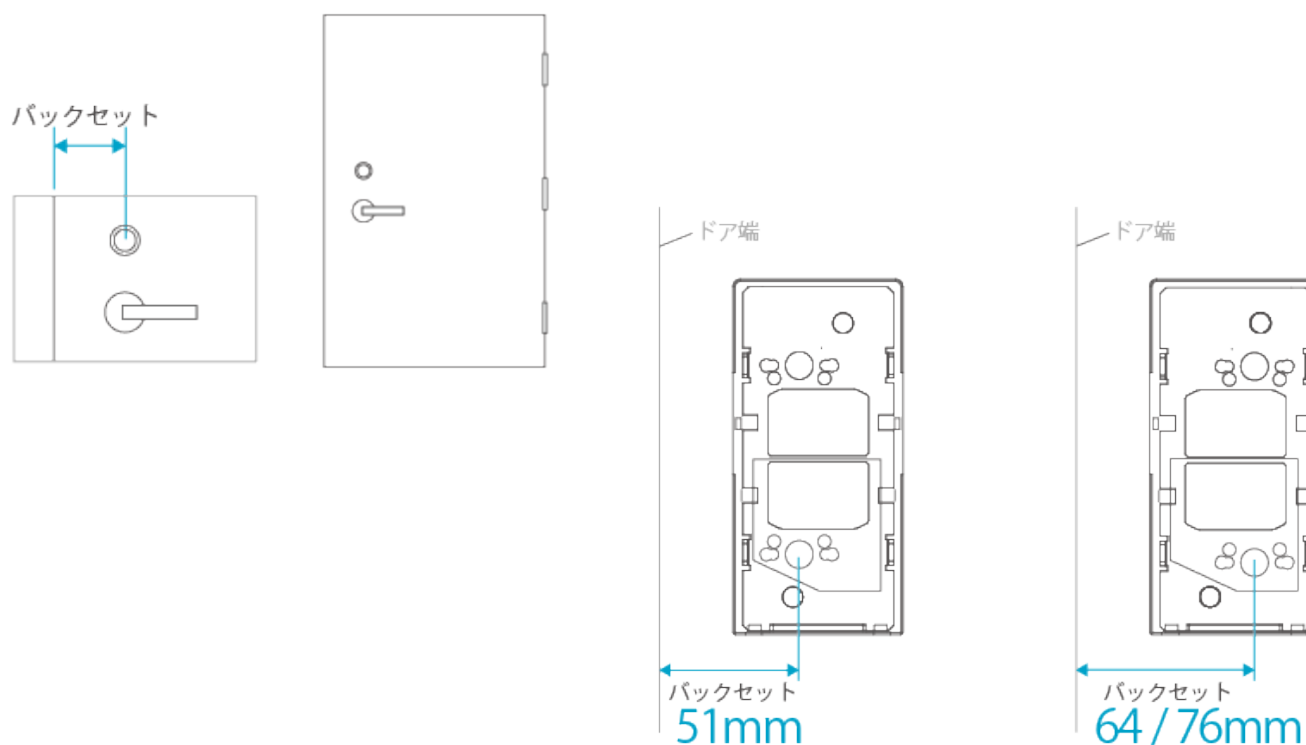
取付けプレートの向き確認

取付けプレートは金属プレートとゴムパッキンが一体となっています。ゴムパッキンから金属プレートをはずすと穴の向きを変えることが可能ですので、設置する扉の向きを確認し、取付けプレートの向きを決定してください。なお、バックセットとはキーシリンダーの中心からドア端までの距離のことです。

室内からドアを見たときに錠ケースが右側にある場合



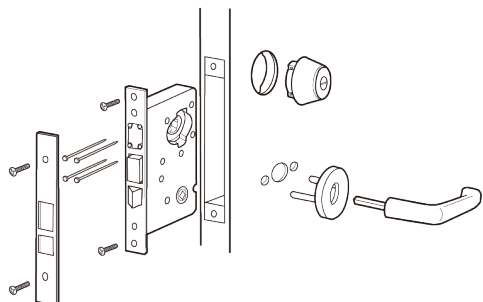
室内からドアを見たときに錠ケースが左側にある場合



5. 設置準備

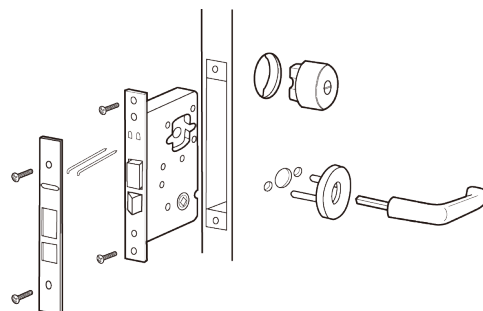
錠前・レバーハンドルの取り外し方

錠前 MIWA LAタイプ



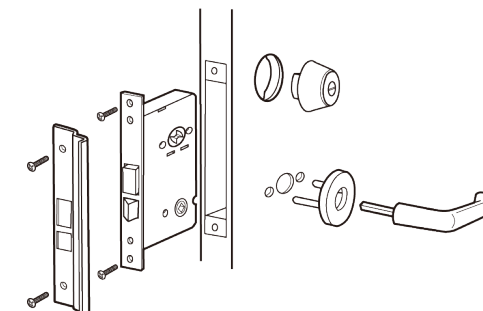
1. ドア側面のフロントプレートを外す
2. カンザシピンをシリンダー側、サムターン側、それぞれ2本抜き取る。このとき、シリンダーが勢いよく飛び出すことがあるので床に落とさないよう気をつけてください。

錠前 GOAL LXタイプ



1. サムターンの小ネジを外し、サムターン内側にあるネジを2本外す
2. ドア側面のフロントプレートを外す
3. カンザシピンをシリンダー側、サムターン側、それぞれ1本抜き取る。このとき、シリンダーが勢いよく飛び出すことがあるので床に落とさないよう気をつけてください。

錠前 MIWA LSP/GOAL TXタイプ



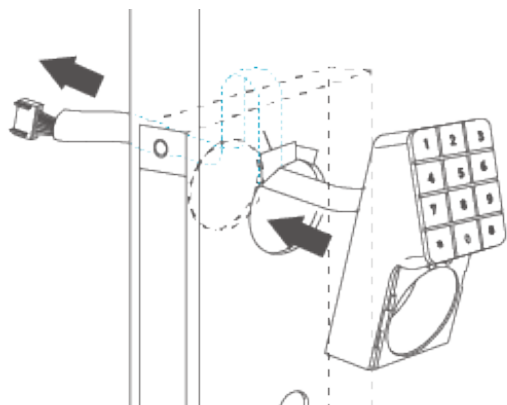
1. サムターンのネジを2本外す
※サムターンのネジが隠されている場合もあります
※GOAL TXへの取り付けには専用金具が別途必要です

レバーハンドルの取り外し

1. 室内側レバーハンドル根元のネジを外す
2. 室内側レバーハンドルを外す
3. 室内側レバーハンドルの丸座を外す
(ツメ式・ねじ込み式等あり)
4. 丸座内部のネジ2本を外し、室内側&室外側の丸座を外す

6. ICマルチリーダー取り付け - MIWA LAタイプ -

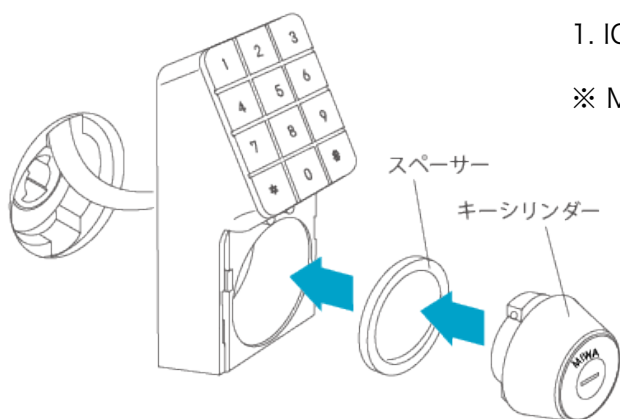
① ケーブルの通線



1. シリンダー切り欠き穴からリーダーケーブルを通線する
2. 錠ケースの上部にケーブルが通るように調整し、錠ケースを取り付ける。このとき、ケーブルは5～7mm程度外に出しておくこと

※ ケーブル挿入時、ドアのバリでケーブルを傷つけないよう注意すること。もしバリがある場合には、穴のエッジに養生やマスキングテープを貼って作業をすること

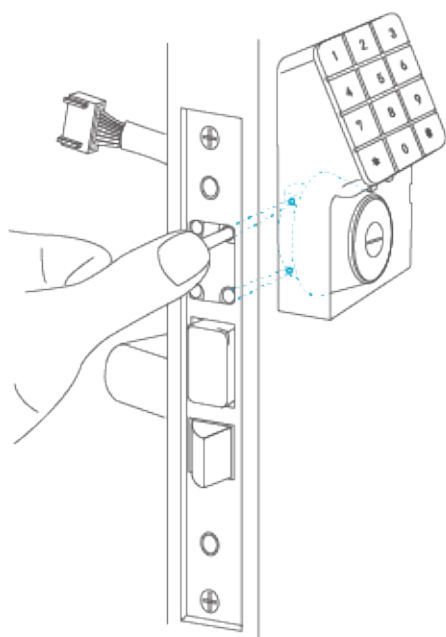
② スペーサー/キーシリンダーの差込み



1. ICマルチリーダーにスペーサとキーシリンダーを差し込む

※ MIWAのロゴの向きに注意すること

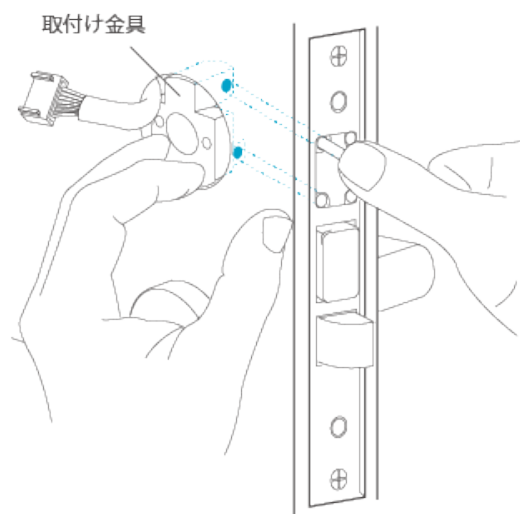
③ ICマルチリーダーの固定



1. 錠ケースの穴とキーシリンダーの穴が合うように指でキーシリンダーを押し込みながらカンザシピンを2本差し込む
2. カンザシピン挿入後、キーシリンダーが浮いたりはずれたりしていないか確認する

6. ICマルチリーダー取り付け - MIWA LAタイプ -

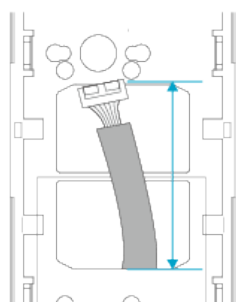
④ 取付け金具の固定



1. 錠ケースの穴と取付け金具の穴が合うように指で取付け金具を押し込みながらかんざしピンを2本差し込む
2. カンザシピン挿入後、キーシリンダーが浮いたりはずれたりしていないか確認する

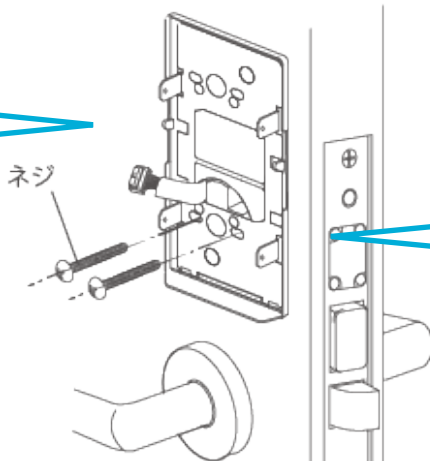
⑤ 取付けプレートの仮固定

ケーブル出し量の目安

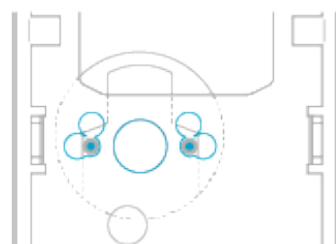


1. ICマルチリーダーのケーブルを取付けプレートの四角い穴へ通し、錠ケース回転軸穴と取付けプレートの回転軸穴を合わせる
2. 錠ケースのネジ穴と取付けプレートのネジ穴を合わせ、ネジを仮固定する

ネジ

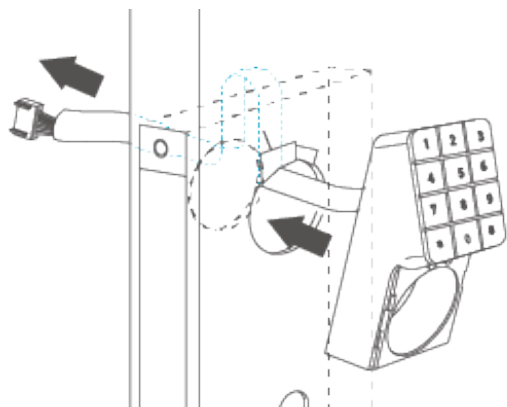


ネジの穴を合わせる



6. ICマルチリーダー取り付け - MIWA LSP・GOAL LX/TXタイプ -

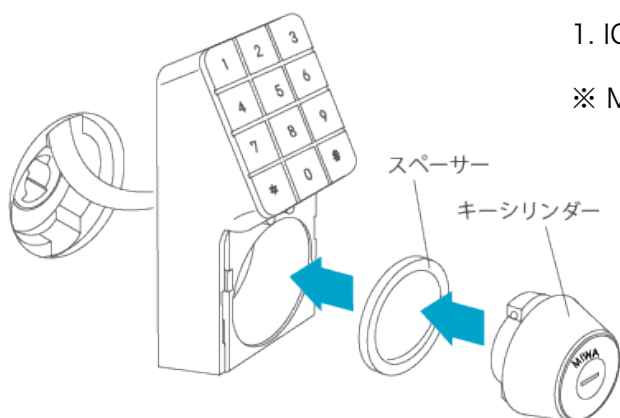
① ケーブルの通線



1. シリンダー切り欠き穴からリーダーケーブルを通線する
2. 錠ケースの上部にケーブルが通るように調整し、錠ケースを取り付ける。このとき、ケーブルは5～7mm程度外に出しておくこと

※ ケーブル挿入時、ドアのバリでケーブルを傷つけないよう注意すること。もしバリがある場合には、穴のエッジに養生やマスキングテープを貼って作業をすること

② スペーサー/キーシリンダーの差込み

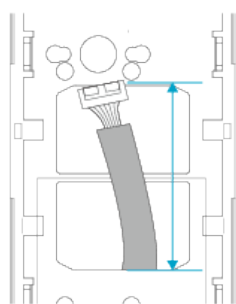


1. ICマルチリーダーにスペーサーとキーシリンダーを差し込む

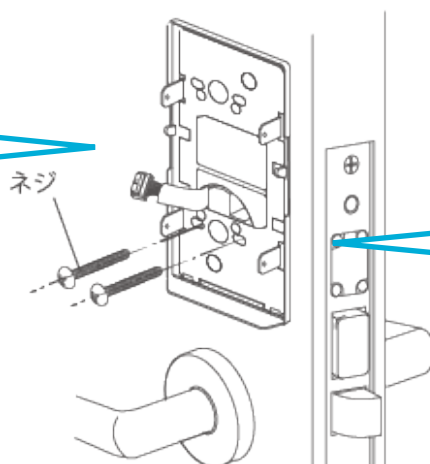
※ MIWAのロゴの向きに注意すること

③ 取付けプレートの仮固定

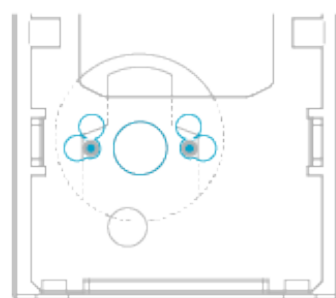
ケーブル出し量の目安



1. ICマルチリーダーのケーブルを取付けプレートの四角い穴へ通し、錠ケース回転軸穴と取付けプレートの回転軸穴を合わせる
2. 錠ケースのネジ穴と取付けプレートのネジ穴を合わせ、ネジを仮固定する

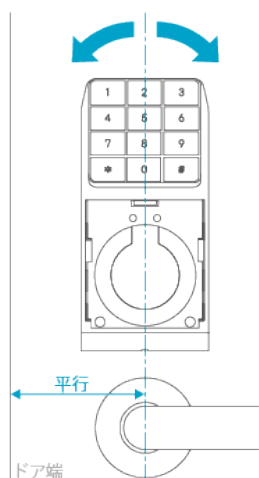


ネジの穴を合わせる



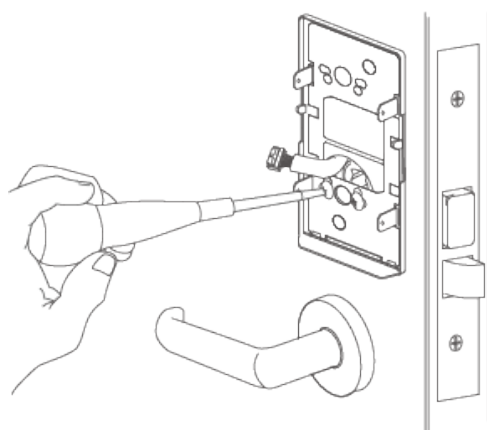
7. 電動サムターン取り付け

① 取付けプレートの固定



1. 仮固定しているICマルチリーダーとドアが平行になるように傾きを調整する

※ 傾きの調整は必ず仮固定状態で行うこと。完全に固定した状態で傾きを調整しようとするとケーブルの断線の原因となります

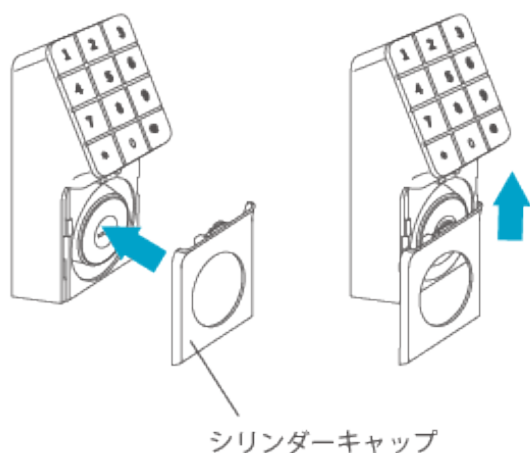


2. ICマルチリーダーと取付けプレートがそれぞれ動かない程度にネジを本締めする

※ 締めすぎると扉がたわみ、電源ユニットのネジ穴と取付けプレートの穴がずれ、電源ユニットや駆動ユニットが取付けできなくなるため注意すること

※ 固定前に錠ケースのフロントプレートを装着すると締めすぎ防止となります

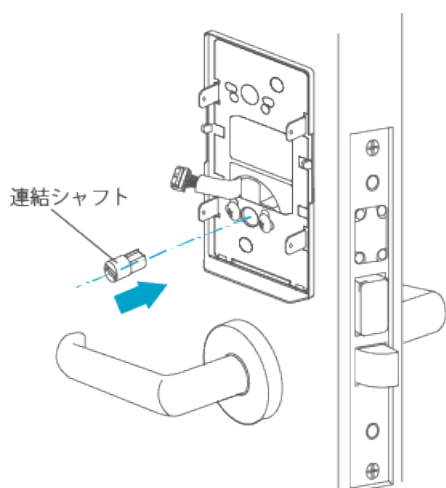
② シリンダーキャップの取付け



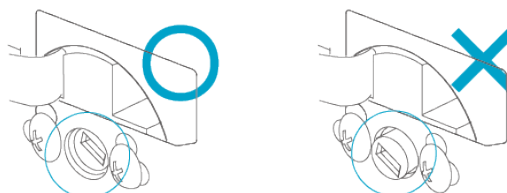
1. シリンダーキャップをICマルチリーダーに当てつけ、上にスライドしてキャップを取付ける

7. 電動サムターン取り付け

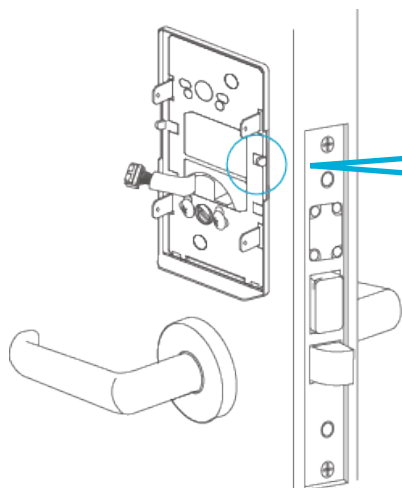
③ 連結シャフトの挿入



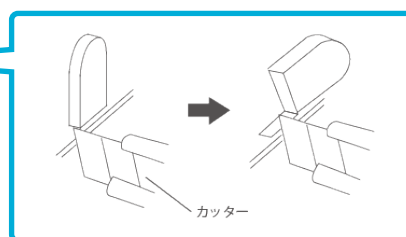
1. 長さ違いの2種類の連結シャフトを用意する
2. まず長い方の連結シャフトを錠ケースの切り欠きに合わせて挿入する
3. 連結シャフトが取付けプレートから飛び出している場合には、短い方の連結シャフトに交換して挿入する



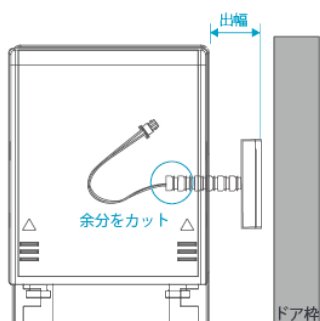
④ ゴムパッキンの耳のカット



1. 錠ケース側のゴムパッキンの耳をカッターやニッパーでカットする



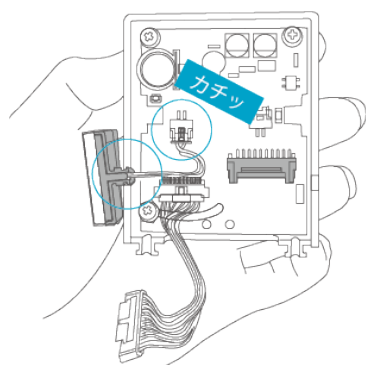
⑤ マグネットセンサーの取付け



1. マグネットセンサーをドア枠と干渉しないところまで出し、出幅を調整する
2. マグネットセンサー筒部分の余分をカットする場合は、細い溝にカッター等を差し込みカットする

※ 筒部分が長いと金属プレートと干渉し電源ユニットがしっかりはまらないため必ず余分長についてはカットすること

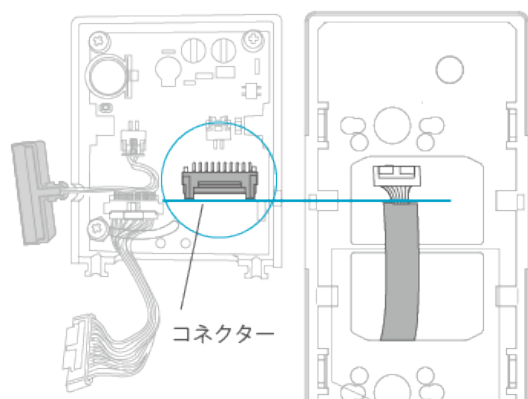
※ 余分をカットする際にはケーブルを切断しないよう気をつけること



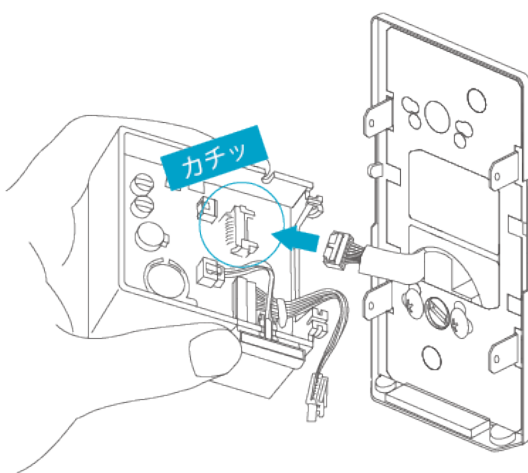
3. マグネットセンサーのコネクターを電源ユニットのコネクターをカチと音がするまでしっかりはめる
4. マグネットセンサーの筒部分を電源ユニットのU字溝にはめて固定する

7. 電動サムターン取り付け

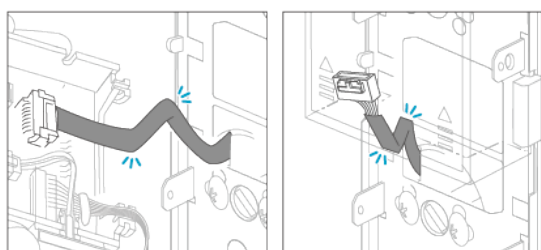
⑥ 電源ユニットの取付け



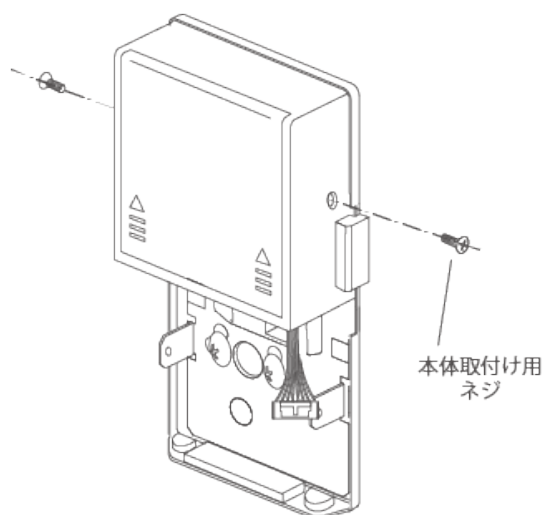
1. ICマルチリーダーのケーブル長が電源ユニットのコネクターと同じ高さにあるか確認する。もし、ケーブルが長い場合には、取付けプレートの固定からやりなおし、ケーブルの出し量を調整する



2. ICマルチリーダーのコネクターを電源ユニットのコネクターへカチッと音がするまでしっかりはめる



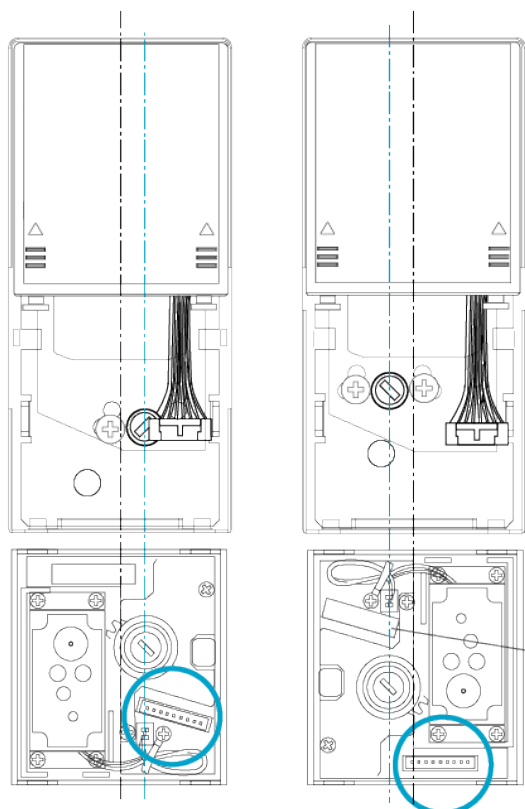
3. ICマルチリーダーのケーブル長が余っていないことを確認する。ケーブル長に余りがあり、折り曲げや折りたたんだ状態で電源ユニット内へ詰め込もうとすると、断線や誤動作の原因となりますので絶対にやらないでください。



4. 電源ユニットのケーブルが筐体に挟み込まれないように気をつけながら取付けプレートへはめ込み、本体取付け用ネジで電源ユニットを仮固定する

7. 電動サムターン取り付け

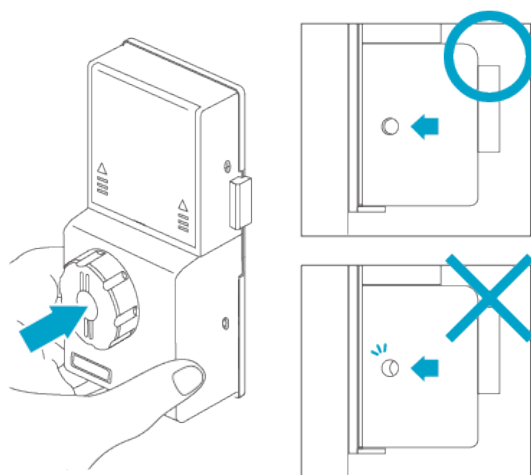
⑦ 駆動ユニットの向き判定



取付けプレートの穴の位置によって、駆動ユニットの向きが変わります。以下を参照して、駆動ユニットの向きを変えてください。

1. 製品センター（黒い破線）に対して、取付けプレートの穴（青い破線）がどちら側にあるかを確認する
2. 駆動ユニットの向きが決まったら、使用しないコネクタにゴムキャップをかぶせる

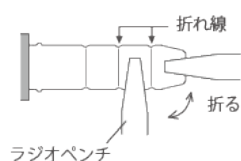
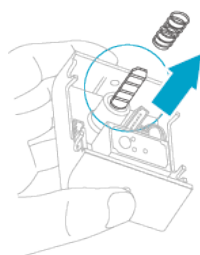
⑧ シャフトの長さ調整



1. シャフトにバネが付いていることを確認し、コネクタをはめずに駆動ユニットをはめる
2. 側面から見て、取付けプレートのネジ穴と駆動ユニットのネジ穴がずれていないか確認する

※ もしネジ穴がずれている場合、ケーブルを挟み込んでしまっている、シャフトが長すぎて先端が錠ケースに当たっている等の可能性があります。ケーブルの位置を見直すか、シャフトとバネの長さの調整をしてください。

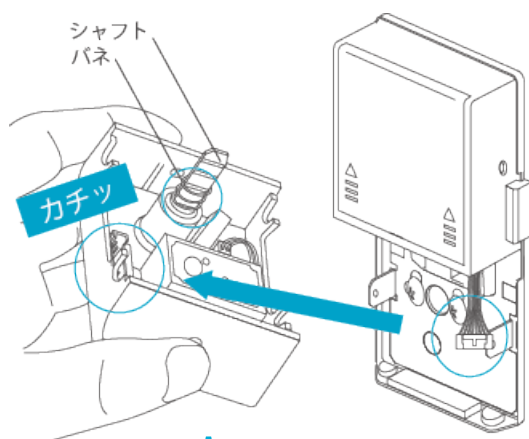
調整方法



1. シャフトからバネを取り外す
2. ラジオペンチでシャフトを挟み、折れ線に沿って1目盛づつ長さを調整して折る
3. シャフトを短くした分バネも短く切断し、シャフトへ取付ける

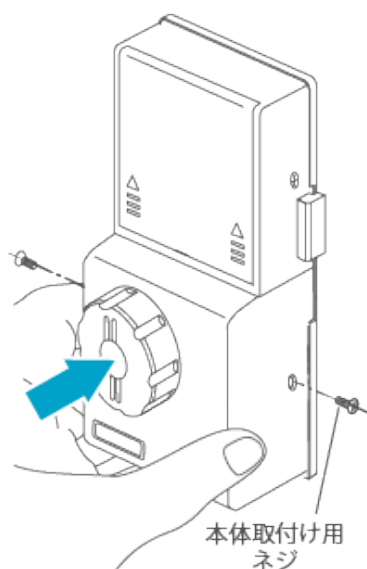
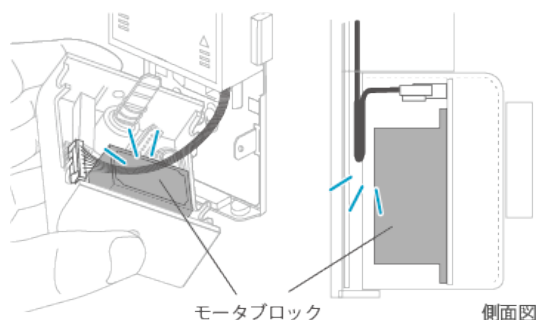
7. 電動サムターン取り付け

⑨ 駆動ユニットの取付け



1. 電源ユニットのコンネクターを駆動ユニットのコンネクターへカチッと音がするまでしっかりはめる
2. ケーブルが駆動ユニットに挟みこまれるのを防止するために、駆動ユニットを回転させてケーブルをねじる
3. ねじったケーブルと駆動ユニットのシャフトが接触しないよう気をつけながら、連結シャフトの穴に駆動ユニットのシャフトを挿入する

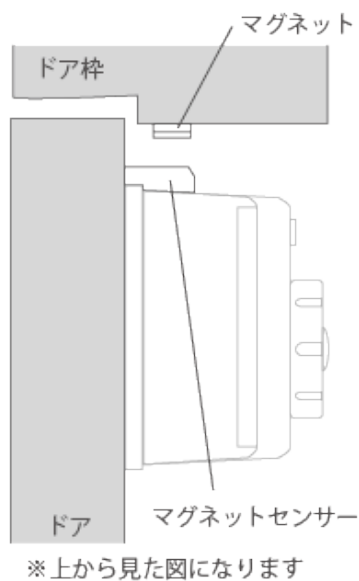
ケーブルがモーターブロックに挟まれないように注意



4. 本体取付け用ネジで駆動ユニットを固定する
5. 仮固定していた電源ユニット側の本体取付け用ネジも本締めする

7. 電動サムターン取り付け

⑩ マグネットの取付け

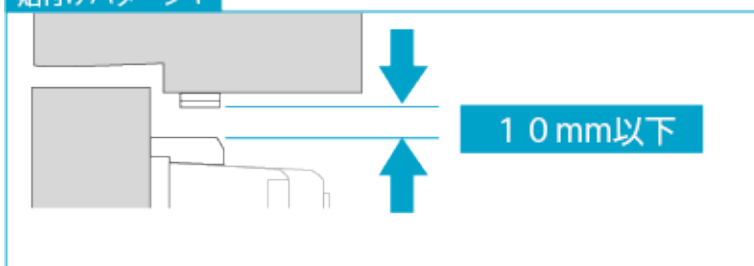


1. 事前に、ドア枠の貼り付け面の汚れを落とすこと
2. マグネットセンサーとマグネットの位置関係が条件を満たすようマグネットをドア枠に両面テープで貼り付ける

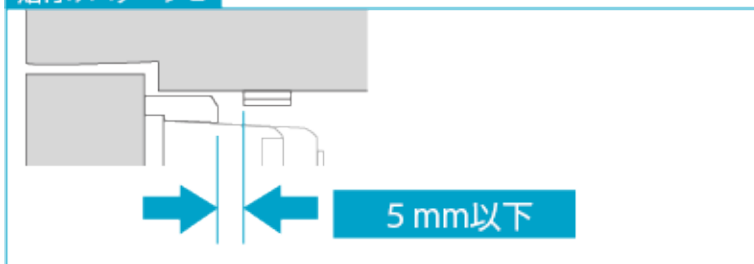
※ 両面テープはスリーエムジャパン製SPG-12を推奨

※ ネジでも固定できます

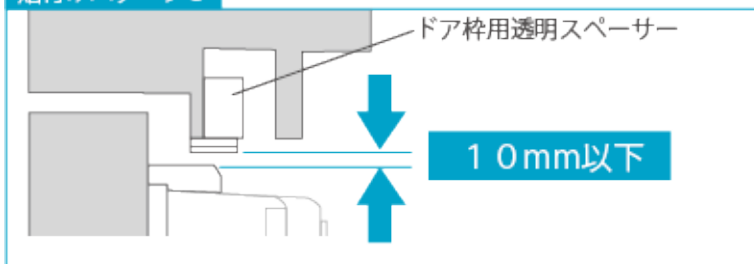
貼付けパターン1



貼付けパターン2



貼付けパターン3

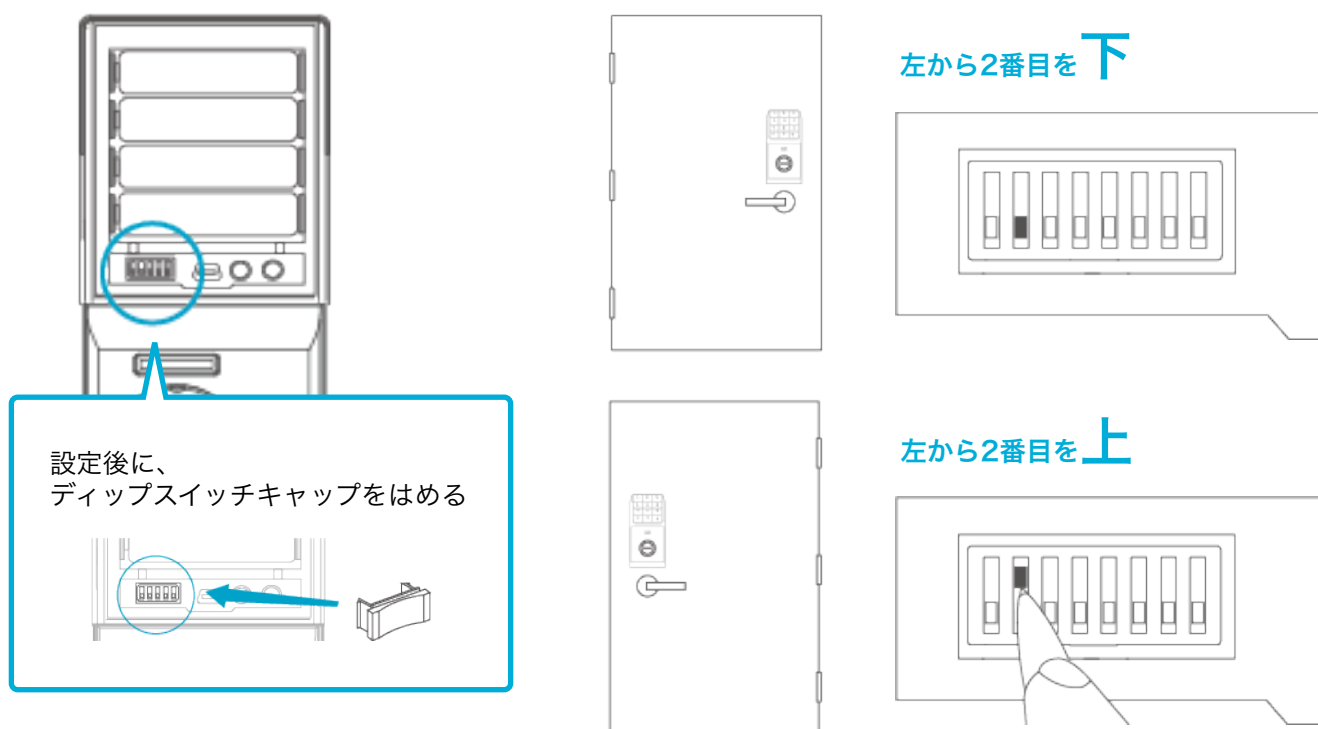


8. 各種設定

扉勝手設定

① ディップスイッチ設定

ドアの向きに合わせてディップスイッチを設定する必要があります。現地にて確実に設定を行ってください。設定完了後はディップスイッチキャップをはめてください。

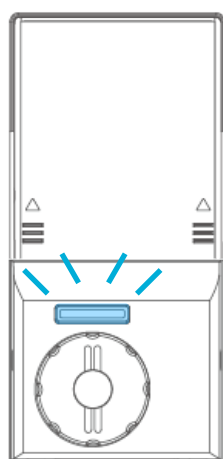


② 変更完了の確認

電池を入れた状態でOPEN/CLOSEボタンを押す→OPEN/CLOSEボタンのLEDと音が以下の動きになるかを確認してください。

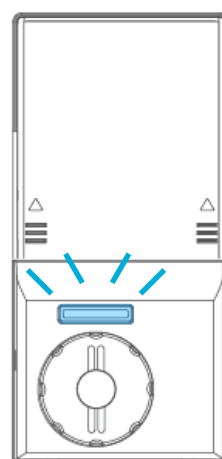
解錠

- OPEN/CLOSEボタンを押す→解錠する
- ・ボタンのLEDが青く点灯
 - ・ピピピという音になる



施錠

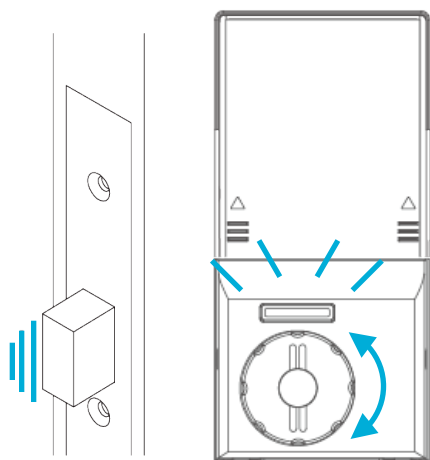
- OPEN/CLOSEボタンを押す→施錠する
- ・ボタンのLEDが青く点灯
 - ・ピーという音になる



9. 動作確認

機器取付完了報告書の項目で特に気をつけてほしいポイントをまとめました

取付確認



つまみによる施錠・解錠のとき

- 1) 扉を開けた状態で施錠・解錠を確認する
- 2) 扉を閉めた状態で施錠・解錠を確認する

- ・スムーズにつまみがまわるか
- ・まわすと引っかかっている（重い）感覚はないか
- ・デッドボルトは完全に飛び出し、しっかり中に戻るか

OPEN/CLOSEボタンによる施錠・解錠のとき

- 1) 扉を閉めた状態で施錠・解錠を確認する

- ・モーターから異音が発生していないか
- ・デッドボルトは完全に飛び出し、しっかり中に戻るか

物理鍵による施錠・解錠も確認すること

もし異常がある場合には、設置の具合と扉の建付も合わせて確認してください。

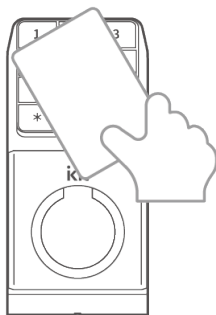
P.6 「既存錠前の確認」で確認した時の状態になっていれば問題ありません

動作確認

マスターカードでの解錠・施錠方法について



いずれかのキーを押す



マスターカードをかざす

マスターカードによる施錠・解錠のとき

- 1) 対象のマスターカードが登録されていることを確認する
- 2) 扉を閉めた状態で施錠・解錠を確認する

- ・モーターから異音が発生していないか
- ・デッドボルトは完全に飛び出し、しっかり中に戻るか

このとき、
すべてのキーが反応するかも押して確認すること
※ キーパッドが反応するとLEDが白く光ります

マルチタブレットでの解錠・施錠方法について



マルチタブレットによる施錠・解錠のとき

- 1) 扉を閉めた状態でマルチタブレットのトップ画面より施錠・解錠ボタンをタップし、扉で実際に施錠・解錠が行われるかを確認する

- ・トップ画面のスマートロックのステータスが切り替わるか
- ※ Bluetoothの通信状況により反応が遅い場合があります

最後に、オートロックが確実にOFFになっていることを確認してください

扉を開けて閉めたときに自動で鍵が施錠する場合には、ディップスイッチの設定またはマルチタブレットの設定よりオートロックがONになっています。設置時にはオートロックを必ずOFFにしてください。

10. 暗証番号のリセット

すべての作業終了後、必ず暗証番号のリセットをしてください



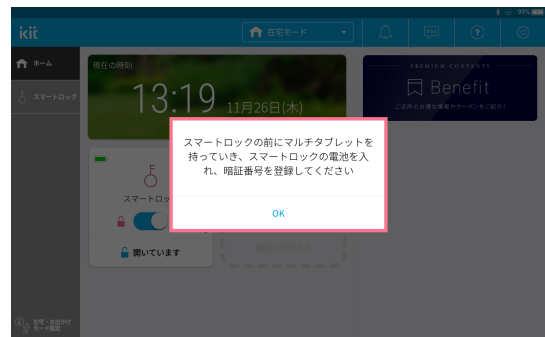
1. メニューからスマートロックを選択し、暗証番号のリセットをタップする



2. OKをタップする



3. リセット後、暗証番号が未登録となっていることを確認する



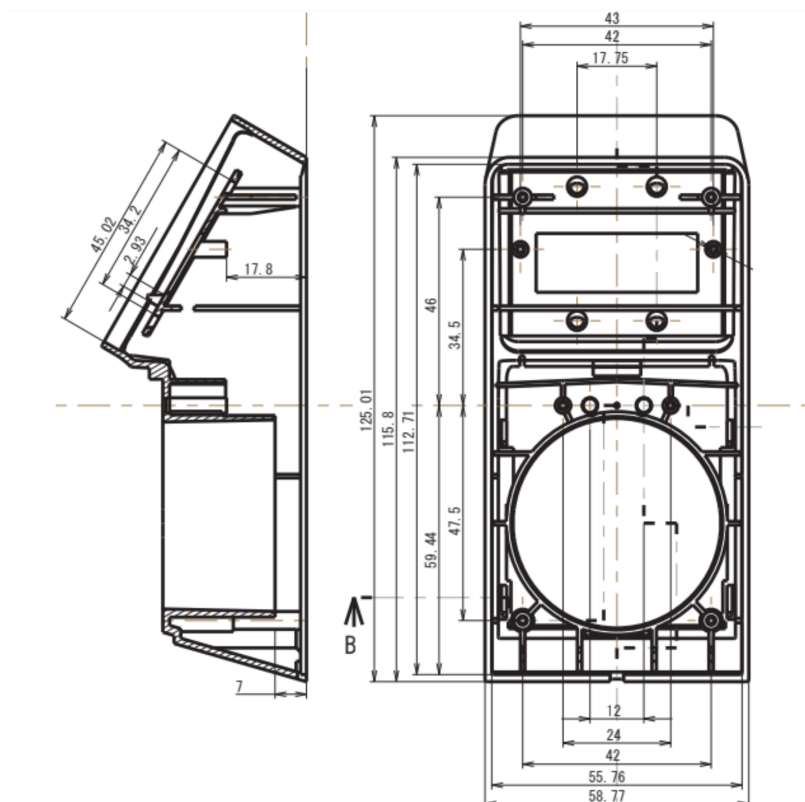
4. ホーム画面に戻り、暗証番号登録のポップが出てくることを確認する

11. Q&A

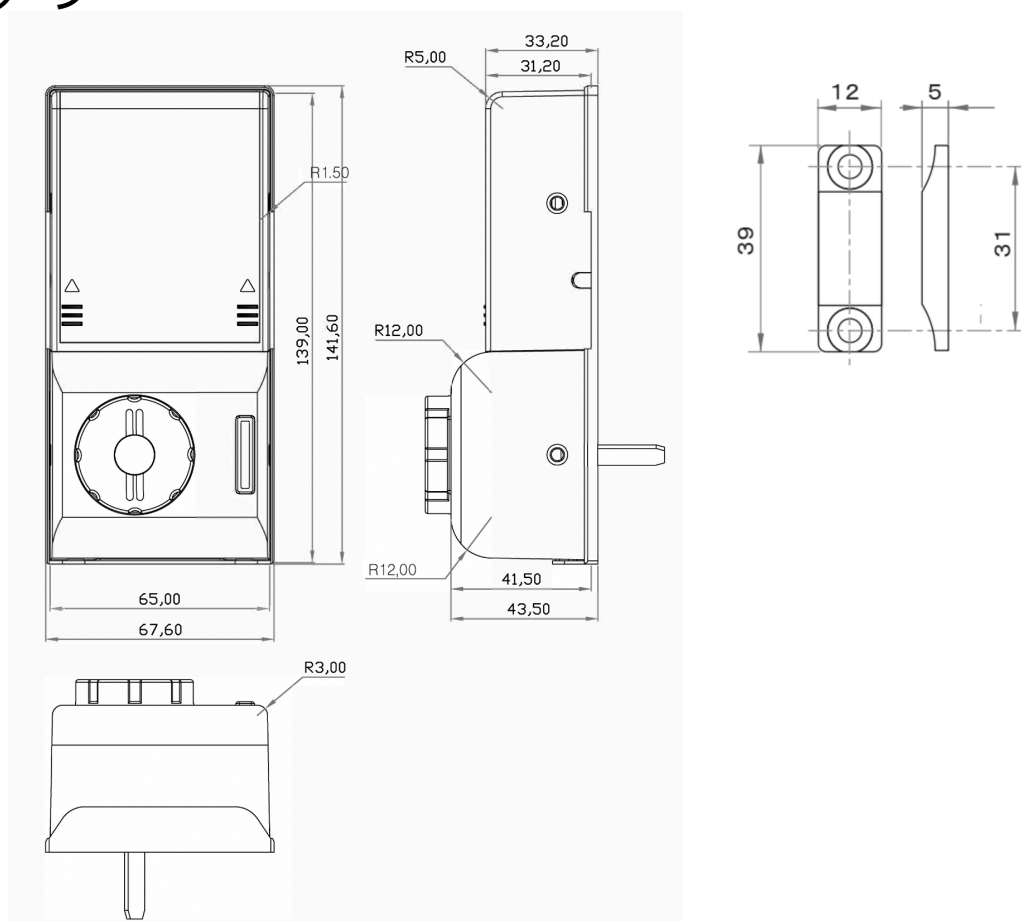
事象	確認事項
電源が入らない	・電池は新しいものを使用しているか 一部だけ新品へ交換しても電圧不足になる可能性があります ・使用している電池はアルカリまたはリチウムか 充電式電池は電圧不足となりますので使用しないでください ・電池の極性が正しく挿入されているか ・電池端子がプラグに確実に接触しているか
テンキーパッドが起動しない	・リーダーケーブルを断線させていないか 扉の切り欠き穴や錠ケースに接触し断線する場合があります ケーブルを折り込むと断線する場合があります ・コネクタはしっかり接続されているか ICマルチリーダーと電源ユニットのコネクタの接続があまい、もしくは斜めに接続してしまっている等と、扉の開閉によってコネクタが外れてしまう場合があります
施錠できない	・扉の建付に問題はないか デッドボルトに側圧がかかっていることで、動かない可能性があります 建付調整にはドアクローザーのスピード調整や丁番起こし等で、デッドボルトがストライクに負荷がかかることなく、出し入れできていることを確認してください
解錠できない	・錠ケースのグリスが切れていないか 錠ケースを洗浄してください ・角芯の長さは適切か ・バネが入っているか ・モーターが故障していないか <LAタイプ> ・テンキーパッド側を引き付け過ぎてないか、扉がたわんでいないか 必要以上にテンキーパッド側を引き付けて設置をしてしまうと、錠ケースが傾斜し角芯に負荷がかかり、トルク不足により解錠できなくなる場合があります
操作を受け付けない	・誤認証を5回以上繰り返していないか 解錠を5回失敗すると5分間認証操作不可になります

12. 図面

ICマルチリーダー



電動サムターン



13. ドアのみめ知識

ドア製品まわりの様々なハウツウを掲載しています

強風時、 換気扇使用時における 玄関ドアの音鳴り現象 について	玄関ドアや窓を閉めきった状態で、換気扇を使用すると、強制的に室内の空気が室外に排出されると共に、同じ量の空気が玄関ドアや郵便投入口等のすき間などから室内に入り込もうとします。その時、枠や扉との接触部分を通り抜ける空気により、笛を吹くような音を出す場合があります。これを笛鳴り現象（風切り音）といいます。 また、強風時や高層マンションのように常時風が吹き抜ける場所等においても、換気扇を使用したときと同様に笛鳴り現象を起こすことがあります。このような現象は、気密性の高い住宅・構造と、自然現象のひとつでもあるため、完全になくすることはできませんが、居室の換気レジスターや窓、窓の換気小窓（窓に換気小窓がついている場合）を開け、空気の吸入口を確保していただくことで、音が静かになります。
換気扇等の換気設備により ドアが開きづらくなる現象 について	24時間換気・換気扇・浴室換気などの換気設備を使用した場合、ドアが重くて開けにくいという現象が生じる場合があります。これは、住戸内の空気が排出されることで住戸内が負圧となり、住戸内外の圧力差によって扉が枠に押しつけられるためです。 このような場合は、居室の換気レジスターや窓、窓の換気小窓（窓に換気小窓がついている場合）を開け、排気に見合う吸気を確保していただくことで、住戸内外の圧力差が緩和され、ドアが開けやすくなります。
玄関ドア等からの 雨水の浸入 について	台風や強風雨時など、ドアの下部や枠と扉のすき間から雨水が浸入することがありますが、製品の不良ではありません。玄関は、屋根・庇等により通常の風雨を防げることで、玄関の土間は居室と違い濡れることを想定しタイルなどで仕上げられています。よって玄関ドア等にはサッシと同等の水密性能は要求されていません。また、施錠機構は、サッシに採用されているような枠と扉を密着させて雨水浸入を防止する引き寄せ機構にはなっていません。台風時等、下枠部分にタオルなどをあて、雨水の吹き込みを防いでください。
玄関ドアの熱反り について	一般的に玄関ドアは、断熱性を高めるよう室内外で熱を伝えにくい構造にしています。したがって、ドア表面に太陽の光が当たったり、室内外の温度差があったりした場合、ドア内外面に温度差が発生し、ドアに反りが発生する場合があります。この反りにより、扉と枠のすき間から光の漏れや、錠の施解錠がしにくくなる現象が発生しますが、内外の温度差が小さくなるとともに解消します。この反りにより、錠の施解錠がしにくい時は、取っ手をしっかり持ち、扉を閉め込んでから、操作してください。

出典：日本鋼製軽量ドア協議会ホームページ『ドアのみめ知識』

13. ドアのみめ知識

ドア製品まわりの様々なハウツウを掲載しています

ステンレスの錆 について

ステンレスが腐食に対して強いのは、表面に保護被膜が形成されるからです。この被膜は空気中の酸素が触れている間は優れた耐食性を示す性質を持っています。そのため、ステンレスの表面が汚れてくると、酸素との接触が妨げられるので、錆が発生することがあります。したがって、ステンレスは決して「錆びない」ものではなく、「錆びにくい」金属と言えます。ステンレスに錆が発生するのは、例えば次のような場合です。

- ・ハウスクリーニングの際、
塩素系の洗剤がステンレス部品に付着した場合
- ・海岸沿いなどの住環境において、塩分が付着した場合
- ・大気中に浮遊する鉄分や有害ガス中の成分が付着した場合

その他、ステンレスの錆として「もらい錆」と言われるものがあります。例えば、鉄くぎの錆が表面に付着したり、土ぼこりの中に含まれる微細な鉄粉が雨水などによって錆びてこびりついたりすることで、あたかもステンレス自身が錆びたように見える現象です。ステンレスについた錆は、台所用クレンザーや市販のステンレス用清掃剤などで、こすり落としてください。この場合、表面にこすり傷がつくことは避けられません。また「もらい錆」が落ちない場合は、錆が進行してステンレス自身に錆が生じたものと考えられます。いったん発生した錆は落とすことが難しいので、日頃からこまめにお手入れをしてください。

虫の侵入 について

ドアは、軽快な開閉ができるように、扉と枠の間にある程度のすき間を設ける構造となっており、完全に密着できるものとなっていません。これらのすき間は、円滑な開閉を考えて薄くて弾力性のあるタイト材やパッキング材で、できるだけふさぐようになっています。昆虫は一般的に、光に向かって飛来する他、扉と枠のすき間に入り込もうとする習性があります。これは、特に、10月、11月など寒さが感じられる時節や、3月、4月の春先の時節、朝晩の寒暖の差が大きい時節などに、外部の寒さから逃れるため、越冬のために、暖気が感じられる家屋に集まろうとする傾向があります。中でも、カメムシやてんとう虫等の這い回る甲虫（こうちゅう）は、少しでも暖かい方に向かって、わずかなすき間でも押し入ろうとする習性が強く、場合によっては、柔らかい材質のタイト材を押し破り室内に侵入することもあります。したがって、このような習性を持つ昆虫の侵入を完全に食い止めることはできません。万一、虫が室内に侵入した場合の対応策は、次のとおりです。

- ・殺虫剤、駆虫剤による駆除をお願いします。
カメムシ専用の薬剤もあります。
- ・特に、カメムシはうっかり触ると悪臭を出し、手の指に染みつくことがありますので、ガムテープの使用をおすすめします。

出典：日本鋼製軽量ドア協議会ホームページ『ドアのみめ知識』

13. ドアのみめ知識

ドア製品まわりの様々なハウツウを掲載しています

ドアの結露 について

扉や枠に結露が発生した場合、床や壁の汚損防止と腐食防止のために、こまめに拭き取ってください。結露は、室内外の温度差が大きく、室内の湿度が高い場合に、自然現象として、季節を問わず発生します。したがって結露はドアの不具合ではありません。

室内の環境条件によっては、断熱性の高いドアを使用していても、結露が発生します。マンション等の玄関ドアは、熱を伝えやすい鋼製の防火ドアですので、枠や扉の回り、郵便受け周辺部は、特に結露が発生しやすくなります。むしろ、扉や枠に結露が生じることは、押し入れの中やタンスの裏側のような目に見えない部分に発生する結露よりも対処しやすいと言えます。

一般的には、秋・冬の季節は、暖房により結露が発生しやすく、インフルエンザ対策や乾燥防止のために、加湿器等をご使用の場合は、特に結露が発生しやすい状況になります。また、新築の家では、使用した木材などの建材に水分が多く含まれているため、冬の暖房時や乾燥しやすい時期に、その水分が放出しやすい室内環境になると、結露が発生しやすくなります。また、睡眠中に人の呼吸などにより、発散する水分が結露の原因になると言われています。

結露を完全になくすことはできませんが、できるだけ抑える方法として、次のようなことがあります。

- ・居室の換気をこまめに行い、水分を含んだ室内の空気を排出する
- ・室内で洗濯物を干さない
- ・ストーブの上でやかんの湯を沸かしたり、加湿器を使ったりしない

出典：日本鋼製軽量ドア協議会ホームページ『ドアのみめ知識』